

成長と
その
先へ



強化指定
男子サッカー部

成長と その先へ

文章: Miku Igarashi / Katsuo Uchiyama /
Keisuke Iwata / Daiki Saito / Kosuke Tsuchida
写真: Kenta Kojima

新潟から全国へ

2005年に発足した新潟医療福祉大学男子サッカー部。これまで全日本大学サッカー選手権(インカレ)に3回、全日本大学サッカートーナメント(総理大臣杯)に1回出場している。新潟聖籠スポーツセンター(通称アルビレックス)を練習拠点とし、Jリーグアルビレックス新潟のプロチームと練習や試合ができるなど、全国で類を見ない環境にある。創部12年目の今年、全国大会で活躍が期待される選手、監督の胸に秘めた熱い想いに迫りたい。

「総理大臣杯で全国出場、北信越大学サッカーリーグ優勝してインカレ出場する」と話してくれたのは、過去に桐光学園や中国フロンティアリーグで4位と悔しい結果に終わっており、監督の言葉には力強さと今年に懸ける思いがこもっていた。前期のリーグ戦は8チームで行われ、現在(5月末4試合)総じて全勝中。しかし、これが正念場である。監督は「チームは非常に若い選手(1・2年生)が中心で、コンセプトやチームとしての戦い方をやりつつ、個々のクオリティの向上させている」と語る。結果にこだわりつつ、目先の結果の他に、選手レベルを1ランク2ランクも上げていこう、という指導方針を感じた。

チームをまとめる町田拓也主将(健康スポーツ学科4年生)。個人の目標は「一番はインカレ。4年間で一度も行っていないので、最後の年に行きたい」と最後の1年に懸ける想いが伝わってきた。彼は、チームで共通理解を持つために、選手間のコミュニケーションを大切にしている。毎回練習終わりに選手全員で集まり、その日の練習を振り返ることでチームを締め固めている。自身の活躍の他に、チームを優先する主将の姿は、男子サッカー部の飛躍に欠かせない存在になるだろう。



Men's Soccer Club



将来も見据えて

新潟医療福祉大学男子サッカー部は、選手数が多くそれぞれに出場機会を与えるため、学連チームと社会人チームの2つに分かれている。学連チームはトップチームとして佐熊監督が指揮をとる。一方、社会人チームは本学のセカンドチームとして元アルビレックス新潟の選手である田中泰裕ヘッドコーチが指揮をとる。田中コーチは社会人チームについて、「選手一人一人の個性を生かせる攻撃的なサッカーをさせたい」と語る。その言葉の裏には、社会人チームの位置づけがある。社会人チームの荒木選手(健康スポーツ学科3年生)は、「3年生の時に、学連チームから社会人チームのメンバーになった。学連チームで出場機会に恵まれなかった悔しさをバネに、自ら行動し、自主練習をしてモチベーションを上げた」と話す。このチームは学連チームへ昇格するための場ではなく、選手がやる気や気持ちに重点を置き、サッカーを頑張りたいと思える居場所を目指している。プロと違い、結果が全てではない学生サッカーを終えた時に、将来に生きるものを掴めたと選手が思えるように活動している事がわかる。選手一人一人の気持ちを考えて、全体に目を向けて気を配る田中コーチ率いる社会人チームにも注目したい。



求められること

サッカー部に求められていること。それは、チーム全体の一体感ではないのかと感じた。チームとして戦術や選手のレベルアップを目指す学連チームと、個々の能力を活かした攻撃的サッカーをして楽しもうとする社会人チーム。同じ部でありながら、スタイルが相反するチーム間は、現在交流することがない。ここ3年の低迷の理由は、選手間、選手とスタッフ間に溝ができていく今の状況にあるのではないのか。トップチームが全国で結果を残すには、監督からの指示だけではなく、選手たちからも意見が言えたり、チームをまたいでコミュニケーションを取ることが成長に繋がるように思える。

チーム間の交流が盛んになれば、社会人チームから学連チームに上がりたいと思う選手が増え、自然と目標が一つになることで競争意識が生まれるはずである。それによって強いチームができるはずだ。そうしていくには、2つのチームのスタイルを融合させたような、強くて楽しいサッカーを掲げて活動することも必要かもしれない。

今年好調を維持するサッカー部には、チームが成長し応援されるために自分を磨く環境は整っている。そして次の段階、全国へ出て結果を残し、新潟でもやれるんだという事を見せるころに来ている。いずれは全国の舞台上に立ち、多くの医福生が見つめる中で頂点を争い活躍することが期待できる部だからこそ、その未来に向けて大きな一歩を刻んでほしい。

男子サッカー部



佐熊裕和 監督
元 桐光学園高等学校サッカー部監督
元 中国サッカーリーグ梅東客隊足球
倶楽部監督
日本サッカー協会公認S級コーチ



田中泰裕 コーチ
元 アルビレックス新潟選手
新潟医療福祉大学卒業生
全日本大学サッカー選手権大会出場
2008、2009



町田拓也 主将
健康スポーツ学科4年生
新潟県新潟明訓高校卒
<高校> 2011年インターハイベスト8
<大学> 2014年北信越選抜メンバー





える意識・変わる見方

～ 心の「障がい」を取り払うパラリンピック ～

文章：Kaoru Ishida / Yuki Takahashi / Issei Otomo 写真：Kenta Kojima



両脚が義足でありながらオリンピックに出場したオスカー・ピストリウス選手を筆頭とする優れたパラリンピアンが存在が話題を呼んでいる。道具を使用した障がい者アスリートがパラリンピックだけでなく、オリンピックにも出場し、更には生身の健常者の記録をも超えている。普段の生活から障がい者アスリートまでの有識者が多数在籍する本学の義肢装具自立支援学科の東江由起夫学科長、同学科3年生今井勇気さんの障がい者スポーツへの考えについて迫る。



東江 由起夫

義肢装具自立支援学科 学科長 教授

2000年 オットー・ボック・ジャパン株式会社テクニカルフォーム推進室長
2001年 早稲田医療技術専門学校学科長を経て現職

Yukio Agarie
学科長

無意識に生まれた「超えてはいけない一線」

私たちが普段生活している中で障がい者スポーツに触れる機会はほとんど無いに等しい。興味・関心・知識が乏しい私たちはパラリンピックを見る際、オリンピックと同じ視点で競技性ばかりに目がいきってしまうことが多いのではないだろうか。

Q1 選手をサポートする側からパラリンピックをどのような視点で見るといいか？

今井「どんな道具を使っているのかが注目します。道具を使っている選手たちが自分に最も合う物をどう選んでいるのか、道具を作っている人達はどうしているのか、その中でも自分だったらこう作りたいなと考えるのが見えます。」

これに対し、プロである東江先生は道具+我々の障がい者に対する意識についての視点を述べてくれた。

東江「義肢装具士の行う仕事（道具の修理・メンテナンス）をまず見ますね。またピストリウス選手の話も障がい者と健常者が一緒に走ることができたということもとても嬉しく感動しましたね。今までは超えてはいけない一線だと誰しもが意識していたと思います。それは我々の中で障がいを理解していないこと、まさか障がい者が...という見方が自然と生まれているためです。その偏見が完全に無くなれば障がいのある競技者も素直に喜べると思います。」

「まさか障がい者が…」という思いが自然と生まれている

健常者、障がい者という見分けをする以前に1人のアスリートとして選手を理解することが大切だと感じた。

託す想いが 技術の進歩へ

義肢をつけた選手が健常者の記録を超え、ハントを補うはずの義肢が技術の進歩によって有利に働き、道具によるドーピングと考えることもできる。

Q2 道具の作り手としての葛藤や想いとは？

今井「自分の作った物で勝つてほしいという考えは特に無いです。自分はその人にとって最高の物を作って選手に託して背中を押すという感覚です。選手自身が持っている力を発揮出来るように物を作りたい。自分はいくまでサポートする側で選手が力を出すことが一番かなと思います。」

東江「むしろ超えてほしいと思います。それは自分たちの技術が高いという証明になりますから。健常者と障がい者を持った人とで区別するとこのような異論はあるとは思わなかった。記録を超えようという技術の革新になります。逆に記録を超えようとする考えすぎると技術の革新はなくなります。技術の革新があるからこそ一般ユーザーも使える。つまり本格的に競技をしている人のために進歩したものがレクリエーションとして競技をしている人も使えるようになります。つまりそれは素晴らしいことだと思います。だから健常者の記録を超えても良いと思います。」

「願望」は同一大会化

両者の言葉からは記録よりもユーザーを想う気持ちが伝わってきた。私たちは記録にばかり目が行きがちだが、あくまで両者が支えるのは記録ではなくユーザーなのだ。

Q3 パラリンピックはどう変化していくと思うか？

今井「健常者の記録を上回ってしまうのであれば大会の境界を無くしてしまえば良いと思う部分もあります。オリンピックの中で部門を作るなど、そのような取り組みの中で、パラリンピックに興味のない人達も、障がい者スポーツに興味を持ってたり知ったり出来るだろう。実際見てみないと全く関わりが無い人達はわからないと思います。健常者の記録を塗り替えたというニュースがあっても「そんなの程度で終わってしまうと思う。そのレベルであれば同一大会化して色々な人に障がい者スポーツを知ってほしいという気持ちがありますね。」

障がい者スポーツを一人でも多くの人に知ってほしい



今井 勇気

義肢装具自立支援学科 3年生

強化水泳部に所属。山形県立酒田光陵高等学校出身。
義肢装具士を目指し、将来は障がい者アスリートのサポートをするため勉学に励んでいる。

Yuki Imai
3年生

東江「オリンピックは道具を使わないのが本来の勝負なのでいい。オリンピックは道具を使わない競技。パラリンピックは道具を使った競技として考えた方がいいと思います。現状は厳しいですが、それでも私も同一大会化を期待してしまう気持ちもありますね。」

両者共に同一大会化を願う気持ちがあったが、実際にパラリンピックに帯同した経験のある東江先生は様々な背景から現状の厳しさを感じていた。その中でも、大会の差を健常者、障がい者ではなく、「道具の有無」と位置付けられた考え方には新鮮さを感じることが出来た。

「私たちはパラリンピックを選手や記録等、表面的な部分からしか見ていなかった。今回両者の考えを聞き、障がい者スポーツを支える側の視点からパラリンピックを考えることが出来た。「障がい者」という言葉も差別用語として問題視されている中で、私たちが無意識に生まれている障がい者の方々に対しての偏見を改めることでパラリンピックに対する考え方も変わる。今パラリンピックは大きな変化のタイミングで一般の方への理解の周知、競技人口の増加、認知度の向上など課題は多くあるが、私たちが競技レベルの向上、技術の進歩に期待しながら様々な角度から障がい者スポーツを考え直し、参加すべきではないだろうか。」

SPORT PEOPLE OB・OG

文章：Takumi Nishiyama



責任ある2つのシゴト - 仕事と私事 -



AO-RE NAGAI



「学生時代に学校以外の人と触れ合う機会を作っていったほうがいい」とアオーレさんは話してくれた。例えばアルバイト。アルバイトでは年齢や性別、出身地を問わず、日ごとのテリトリーの外の人と触れ合うことができ、自分の知り得なかったことを教えてもらうことができる機会になる。

アオーレさんも学生時代、プールでアルバイトをしていた。そこでは、水泳指導に対する子供たちの反応や今後の方針について、保護者に報告や相談を行うため、指導だけではなく保護者とのコミュニケーションも大切であったという。そのような状況で、こちらから動かないと親御さん方と話す機会は作れなかった。自ら積極的に行動を起こす大切さを学んだそうだ。

こういった経験は、わずかながら社会を覗き見ることができる。あるいは、「このような大人にはなりたくない」といった反面教師のような人と出会う機会にもなる。どちらの経験も、対人能力の向上が期待できるだろう。学校生活において得られる経験に加え、学外での活動の経験が自身の成長につながり、様々な場面に生きてくることができる。



自分の テリトリーから 踏み出すこと

今回は、営業マンの仕事と週末レフェリーの活動を両立する永井さんにスポットをあて、2つのシゴトに全力で取り組む姿勢を学ばせてもらう。

永井さんにはもう一つの顔。それは「アオーレ長井」というプロレスのレフェリーとしての顔だ。前職に勤めていた時に参加したイベントで、新潟プロレス代表のシマ重野氏と出会った。そこで、新潟プロレスという地域密着型のプロレス団体のスタッフ募集の話を知り、元々プロレス好きだったアオーレさんは、レフェリーとして関わることを決めたのであった。

今回、取材をさせて頂いたのは永井亮太さん。2008年、本学健康スポーツ学科を卒業後、総合型地域スポーツクラブに就職。その後、転職をし、現在はシャッターを製造・販売している安中製作所で営業マンとして仕事をしている。



「屈強なレスラーに技をかけられる危険性、かけられた後も冷静にジャッジをしなければならぬ状況、不測の状況のために準備を怠らさずに行う。すべてを乗り越え、たうでレフェリーをやり通している。ここにアオーレさんの強い覚悟を垣間見ることができた。



リングの上に 立つ覚悟

プロレスでは、レフェリーに手を出すのは禁止されている。もちろん、してはいけないことであり、あつてはならないことだ。しかし、同じリングに立っている以上、時にレスラーに掴まれたり投げられたりもする。常に危険と隣り合わせの状況にある。そういった場面では自分の身を守らなければならない。受け身の練習などの準備を行っている。覚悟を持ちながらも毎回何が起きるかわからないという恐怖感と戦っている。

「アオーレさんが学生に対して「卒業までに挨拶を身に付けておいてほしい」とアドバイスしてくれた。挨拶は、人とのつながりには必要不可欠であり、特に社会に出たときには、非常に大切な礼儀作法である。挨拶ができなければどこに行っても相手にされない。大学では、勉強に励むだけでなく、人間的な成長もしていかなくてはというメッセージだ。当たり前を当たり前にすることが一番難しい。一方、自然にできるようにすれば武器になり有益なものとなる。



勉強だけではなく 「人間性」

アオーレさんは普段の営業マンとしての仕事をこなし、新潟プロレスのレフェリーを務めている。責任ある二つのシゴトに仕事と私事を全う出来るのは、様々な経験によって形成された人間性の上に成り立つ覚悟があるからこそである。学生時代から人と関わり、自分の可能性を広げる大切さをアオーレさんから教えてもらった。今から自分を省みて意識的に一歩踏み出すことで、後悔のない選択をしていけるのではないかと感じた。

永井亮太 (アオーレ長井)

新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科 3 期生

在学中はハンドボール部に所属。本学を卒業後、総合型地域スポーツクラブに就職。現在は株式会社安中製作所に勤務、仕事と両立して新潟プロレスのレフェリーを勤めている。

新潟プロレス

「新潟に元気を与えて、夢をつみあげよう」をコンセプトとする地域密着型のプロレス団体。新潟県各所において積極的にプロレス大会を開催している。所属人数 7 人、他参戦レスラー 13 人。



NUHW SPORT 応援 SCHEDULE

クラブ名	日程	大会名	場所
水泳部	7月2日(土)~3日(日)	中部学生選手権水泳競技大会	日本ガイシアリーナ(名古屋)
	9月2日(金)~4日(日)	第92回日本学生選手権水泳競技大会	辰巴国際水泳場(東京)
	9月25日(日)	オープンウォータースイミング日本選手権水泳競技大会	お台場海浜公園(東京)
	1月7日(土)	長岡新春記録会	ダイエープロビスフェニックスプール(長岡)
	2月19日(日)	長岡室内水泳選手権大会	ダイエープロビスフェニックスプール(長岡)
	2月26日(日)	新潟県SC協チャンピオンシップ	ダイエープロビスフェニックスプール(長岡)
男子バスケットボール部	7月1日(金)~3日(日)	第20回日本男子学生選抜バスケットボール大会	新潟市東区総合体育館
	7月未定	平成28年度新潟県学生リーグ戦	新潟市内大学
	9月2日(金)~4日(日)	第48回甲信越大学定期戦大会	長野県
	9月11日(日)・17日(土)~18日(日)	第63回北陸選手権大会	柏崎市総合体育館・他
	9月22日(木)・24日(土)~25日(日)	新潟県選手権大会兼全日本総合県予選会	三条市栄体育館・他
	10月20日(木)~22日(土)	第50回全日本学生北信越予選会(インカレ予選)	福井県
	11月21日(月)~27日(日)	第68回全日本学生選手権大会(インカレ)	代々木第2体育館・他
	12月10日(土)~11日(日)	第21回新潟県学生選手権大会	新潟市亀田総合体育館
女子バスケットボール部	7月1日(金)~3日(日)	第33回女子日本学生選抜バスケットボール大会	新潟市秋葉区総合体育館
	8月27日(土)~28日(日)	ミニ国体	長野県
	9月2日(金)~4日(日)	第48回甲信越大学定期戦大会	長野県
	9月22日(木)・24日(土)~25日(日)	新潟県選手権大会兼全日本総合県予選会	三条市栄体育館・他
	10月20日(木)~22日(土)	第50回北信越大学バスケットボール選手権大会(インカレ予選)	北信越各地
11月21日(月)~27日(日)	第68回全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)	東京都	
硬式野球部	9~10月(毎週土日)	関甲新学生野球連盟秋季1部リーグ戦	上武大学(群馬) 白鷲大学(栃木)
ダンス部	8月3日(水)~6日(土)	第29回全日本高校大学ダンスフェスティバル	神戸文化ホール(兵庫)
	10月9日(土)~10日(日)	伍桃祭	本学ダンススタジオ
	3月3日(金)	第4回新潟医療福祉大学ダンス部公演	北区文化会館
女子バレーボール部	7月16日(土)~18日(月)	中部日本総合選手権	会場未定
	8月27日(土)~28日(日)	ミニ国体	長野県松本市
	9月17日(土)~18日(日)	秋季信越大学リーグ戦	長野県上田市
	10月中旬	天皇杯北信越ブロック予選	会場未定
	10月28日(金)~30日(日)	秋季北信越大学トーナメント戦	石川県
	11月28日(月)~12月4日(日)	全日本インカレ	東京都
男子バレーボール部	10月21日(金)~23日(日) 10月29日(土)~30日(日)	第64回秋季北信越大学バレーボール大会	石川県
よさこい部	9月16日(金)~18日(日)	新潟総踊り	万代・古町(新潟市)
	10月9日(日)~10日(月)	伍桃祭	本学

クラブ名	日程	大会名	場所	
陸上競技部	7月16日(土)~18日(月)	県選手権大会(新潟)	新潟市陸上競技場	
	7月23日(土)	全日本学生駅伝予選会	ビッグスワン	
	8月27日(土)~28日(日)	北陸選手権大会(新潟)	新潟市陸上競技場	
	9月2日(金)~4日(日)	第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	熊谷スポーツ文化公園陸上競技場(埼玉)	
	10月未定	北信越学生選手権	福井	
	10月28日(金)~30日(日)	日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)	
	10月30日(日)	全日本大学女子駅伝対校選手権大会	宮城県仙台市	
	7月2日(土)	第44回北信越大学サッカーリーグ(1部リーグ前期)	聖籠スポーツセンターEピッチ(正面)	
	7月10日(日)		北信越大学フットボールパーク(Aコート)	
	7月23日(土)		経大フィールド	
男子サッカー部(学連)	9月10日(土)	第44回北信越大学サッカーリーグ(1部リーグ後期)	聖籠スポーツセンターEピッチ(正面)	
	9月18日(日)		石川県サッカー場	
	9月24日(土)	聖籠スポーツセンターEピッチ(正面)		
	10月8日(土)	松商学園総合グラウンド		
	10月16日(日)	北信越大学フットボールパーク(Aコート)		
	10月29日(土)	聖籠スポーツセンターEピッチ(正面)		
	1月6日(日)	聖籠スポーツセンターEピッチ(正面)		
	男子サッカー部(社会人)	4月~8月	新潟日報杯・NHK杯・共同通信杯第21回新潟県サッカー選手権大会2016	会場多数
		11月	全国社会人サッカー選手権大会	
	女子サッカー部	4月~9月	2016プレナスチャレンジリーグ※WEST所属	聖籠スポーツセンター(アルビレージ)他
10月~11月		第25回全日本大学女子サッカー選手権北信越大会	北信越各地	
軟式野球部	7月1日(金)~6日(水)	全日本大学軟式野球選手権大会	長野県	
	8月~9月	新潟予選 秋リーグ戦	味方球場(南区) 月潟球場(南区)	
	11月14日(月)~18日(金)	東日本大学軟式野球選手権大会	会場未定	
バドミントン部	7月3日(日)・9日(土)~10日(日)	第68回北陸地区国立大学体育大会	金沢市総合体育館(石川)	
	8月11日(木)~14日(日)	第63回北信越学生バドミントン選手権大会	新潟県	
	11月4日(金)~6日(日)	第70回北信越大学バドミントン選手権大会	氷見ふれあいスポーツセンター(富山)	
	12月3日(土)~5日(月)	第23回北信越学生新人バドミントン選手権大会	福井県	
硬式テニス部	8月17日(水)~19日(金)	北信越学生テニス選手権大会	北信越大学テニスコート(男子) 福井大学医学部テニスコート(女子)	
	9月17日(土)~19日(月)(1部)	北信越大学対抗テニス王座決定試合	常願寺公園コート(富山)	
	7月~9月中旬		各大学コート	
ハンドボール部	9月2日(金)~4日(日)	北信越学生秋季リーグ戦	柏崎総合体育館(新潟)	

※上記の試合内容は変更の可能性があります。詳細については各大会主催団体にお問い合わせください。



発行所 NUHW SPORT MEDIA
 発行年 3回
 E-mail nuhwsportmedia@gmail.com
 制作協力 メイクス株式会社、株式会社イストクル、新潟プロレス